

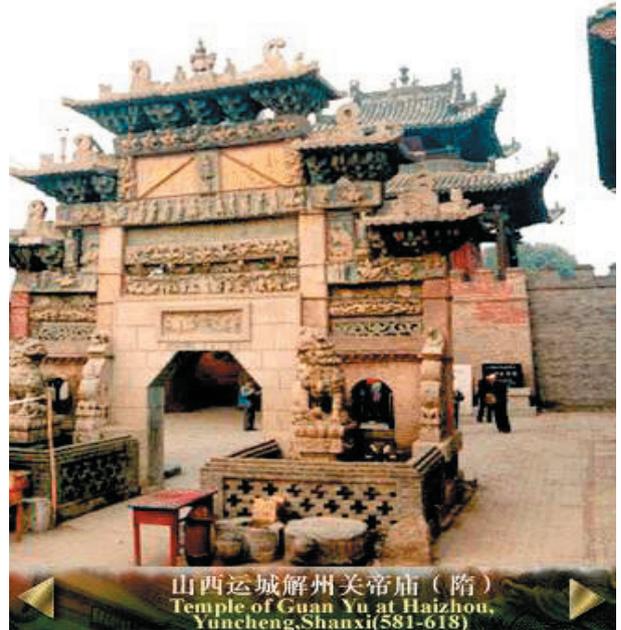
悠々たる何千年の中国の歴史は、英才輩出の歴史でもあります。中国の古代文化と文明の発展歴史上に、鮮やかな光を放した人物は数え切れないほど多かったのです。しかし、「聖人」と呼ばれたのは二人しかいません。それは「文聖人」の孔子、と「武聖人」の関公です。

関公は、即ち関羽の尊称です。関羽は、史書の『三国志』の中で、勇武、忠実で、終生劉備に忠誠を尽くし、補佐して、劉備が三国鼎立の偉業を成し遂げるのに貢献した人物です。本来は、名将として広く知られた人物でしたが、その後、関羽は次第に美化、聖化、神化され、「関帝聖君、関帝翁、山西夫子、関夫子、蓋天古仏、協天大帝、伏魔大帝、関帝菩薩、伽藍菩薩」など、多くの呼び名で呼ばれるようになりました。そして、隋・開皇十二年(592)には仏教が「護法伽藍神」の号を、宋・真宗趙恒于大中祥符七年(1014)には道教が「義勇武安王」の号を関公にそれぞれ封じ、関公はとうとう人間から神の席に座るようになりました。

孔子は「文聖人」と言われていますが、関公は「武聖人」と賞賛され、中国の伝統的な美德である、忠、信、儀、勇を一身に集め、社会性のある行為を成し遂げた模範的人物として仰がれています。そして、役人はその「忠」、商人はその「信」、庶民はその「義」を、将はその「勇」を各自の行動の信条とし、それぞれの望を託し、歴代の支配者も、社会の安定に役立つようと望んで、「忠、信、義、勇」の精神を提唱し、上手にそのメリットを利用して来ました。

このようにして関羽没後の千年来、社会各階層は、関公様の完璧な人格から各自の必要に依じる行為の規範となり、関公崇拜は、長い歴史の流れと共に、さまざまな関公文化を形成し、中国の重要な伝統文化の一つになりました。

孔子を祭る廟は、過去二千年間に、数え切



れないほど造られました。関公様を祭る関帝廟の数にはとても及びません。また、海外でも、中国人が生活しているところであれば、関帝廟が必ず設けられていると言っても過言ではありません。お正月、祖先を祭る折、悩みがある時や願いがある時、人々は謹んで関公様を拝みます。

山西省運城市にある解州は関公の故郷です。解州にある「関帝廟」は天下第一関帝廟といわれます。隋の開皇九年(589)に建てられましたが、その後の戦乱で失われては再建され、現在のものは、清の康熙四十一年(1072)の大火で全焼した後、十年間を掛けて再建されました。

解州関帝廟は、現在に至るまで関羽を祭る全国で一番大きな場所として、中国内外から、一年中絶え間なく、様々な思いを持つ観光客を引き付けてやまない古い観光地です。そしてここには、雄大で壮麗な建物があるばかりではなく、関羽に関わる歴史文物も沢山残されているとのことで、訪れた人々は、関公文化のその長い歴史、関公の厚い精神などを感じるそうです。